

科目名	病態・薬物治療学1			ナンバリング	PHA453	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、松本司、佐藤龍昌○、福地祐司○				

授業の概要	薬剤師として適切な薬物治療に参画できるようになるために、疾患に関する知識を修得する事を目的とする。とくに薬物治療については、症例を読み、処方解析や投与計画、薬物の作用機序、効力、作用時間、副作用や相乗効果等に関する基本的な知識を修得する事を目的とする。 本講義では、主要な感染症、脳神経疾患、精神疾患、循環器疾患の病態生理、症状、診断、治療について解説する。						
到達目標	1 細菌、真菌、ウイルスなどの感染症の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 2 脳血管疾患、脳腫瘍、神経疾患(てんかん、パーキンソン病、認知症、重症筋無力症)、精神疾患(気分障害、統合失調症、不眠症、心身症等)の病態生理と診断、薬物治療について説明できる。 3 循環器疾患(高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など)の病態生理と検査方法、診断、薬物治療について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 細菌、真菌、ウイルスなどの感染症の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 2 脳血管疾患、脳腫瘍、神経疾患(てんかん、パーキンソン病、認知症、重症筋無力症)、精神疾患(気分障害、統合失調症、不眠症、心身症等)の病態生理と診断、薬物治療について説明できる。 3 循環器疾患(高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など)の病態生理と検査方法、診断、薬物治療について説明できる。	1 細菌、真菌、ウイルスなどの感染症の病態生理、診断、薬物治療ならびに薬物相互作用についても説明できる。 2 脳血管疾患、脳腫瘍、神経疾患(てんかん、パーキンソン病、認知症、重症筋無力症)、精神疾患(気分障害、統合失調症、不眠症、心身症等)の病態生理と診断、薬物治療ならびに薬物相互作用についても説明できる。 3 循環器疾患(高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全など)の病態生理と検査方法、診断、薬物治療ならびに薬物相互作用についても説明できる。。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				90%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。提出しなければ減点。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備している。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	精神疾患の薬物治療②	症例を用いて統合失調症の症状や病態を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(2)-③-4,5 (担当:林)
	第17回	1.循環器疾患概論 2.不整脈の病態生理と診断	循環器疾患を分類し、代表的な例について紹介する。また、不整脈の病態生理と分類、心電図よりそのタイプを分類する。	SBO:E2-(3)-①-1 (担当:佐藤)
	第18回	不整脈の薬物治療(1)	不整脈の症例を用いて症状や心電図より診断(上室性、心房性等、WPW症候群)し、治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-1 (担当:松本)
	第19回	不整脈の薬物治療(2)	不整脈の症例を用いて症状や心電図より診断(上室性、心房性等、WPW症候群)し、治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-1 (担当:松本)
	第20回	心不全の病態生理と診断	心不全の病態生理を示し、急性及び慢性心不全の診断方法や治療薬について解説する。	SBO:E2-(3)-①-2 (担当:佐藤)
	第21回	心不全の薬物治療(1)	症例を用いて慢性心不全の症状や病態を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-2 (担当:松本)
	第22回	心不全の薬物治療(2)	症例を用いて急性心不全の症状や病態を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-2 (担当:松本)
	第23回	高血圧・低血圧の病態生理と診断	高血圧の病態生理を示し、重症度の診断方法や治療薬について解説する。	SBO:E2-(3)-①-4 (担当:佐藤)
	第24回	高血圧・低血圧の薬物治療(1)	症例を用いて高血圧(血管性、体液性)の症状や重症度を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-4 (担当:松本)
	第25回	高血圧・低血圧の薬物治療(2)	症例を用いて高血圧(神経性など)や低血圧の症状や重症度を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-4 (担当:松本)
	第26回	虚血性心疾患の病態生理と診断	狭心症を発症機序や症状より安静狭心症、労作性狭心症に分類し治療薬について解説する。また、心筋梗塞の病態と心電図変化を示し、長期的治療の重要性を解説する。	SBO:E2-(3)-①-3 SBO:E2-(3)-④-1 (担当:佐藤)
	第27回	虚血性心疾患の薬物治療(1)	狭心症や心筋梗塞の症例を用いて症状や重症度を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-3 (担当:松本)
	第28回	虚血性心疾患の薬物治療(2)	狭心症や心筋梗塞の症例を用いて症状や重症度を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-①-3 (担当:松本)
	第29回	その他の先天性・後天性心疾患、血管疾患の病態生理と診断	肺性高血圧や、閉塞性動脈硬化症(ASO)、拡張型心筋症などの病態生理と診断方法について解説する。	SBO:C14(2)-2-6) SBO:E2-(3)-①-5 (担当:佐藤)
	第30回	その他の先天性・後天性心疾患、血管疾患の薬物療法	肺性高血圧や、閉塞性動脈硬化症(ASO)、拡張型心筋症などの治療薬について解説する。	SBO:E2-(3)-①-5 (担当:林)
	試験	試験は、病態と薬物致傷に分かれて実施する。それぞれ講義毎の小テスト、まとめ演習、期末試験を実施する。小テストは10%、まとめ演習(20%)、期末試験は70%ととして評価する。期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方		講義とそれに対する質疑応答とする。講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。講義で使用する資料やプリントは「学修支援システム」に保存しているので講義時に持参すること。		
授業外学習の指示		講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりにならないようにすること。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	①「疾病と病態生理」豊島 聡監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 ②「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考書	講義で使用するプリント・資料は、「manab@」からPDFファイルとしてアップロードしている。 「新臨床内科学」高久史磨監修、医学書院、22,000円、ISBN 978-4-260-00305-6 「薬物治療学」平井みどり、三木知博編、化学同人、6,500円、ISBN 978-4-759-81269-5
参考URLなど	
その他	講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で調べ解答すること。 5. 基礎的な科学力、8. 研究能力 アドバンスト5%、大学独自10%

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	細菌感染症の病態生理と診断	各種細菌類による感染症の症状や概要を示すと共に、診断方法について解説する。 講義で使用する資料やプリントは「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(7)-③-1～5、 (担当:佐藤)
	第2回	細菌感染症の薬物治療①	症状や検査結果よりグラム陽性菌による感染症を分類し、適した治療薬を選択すると共に、相互作用についても解説する。	SBO:E2-(7)-③-1～5 SBO:E2-(7)-①-1,2 (担当:福地)
	第3回	細菌感染症の薬物治療②	症状や検査結果よりグラム陰性菌による感染症を分類し、適した治療薬を選択すると共に、相互作用についても解説する。	SBO:E2-(7)-③-6～10 SBO:E2-(7)-②-1 (担当:福地)
	第4回	その他の感染症(ウイルス、真菌、原虫等)の病態生理と診断	ウイルス、心筋、寄生虫等による感染症の症状や概要を示すと共に、診断方法について解説する。	SBO:E2-(7)-④-1～6 (担当:佐藤)
	第5回	その他の感染症(ウイルス、真菌、原虫等)の薬物治療	症状や検査結果よりウイルス、真菌、原虫等による感染症に対し適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(7)-④-1～6 (担当:佐藤)
	第6回	脳血管疾患の病態生理と診断	脳梗塞、脳内出血、クモ膜下出血、偏頭痛など原因や症状の概要、さらに診断方法についても解説する。	SBO:E2-(1)-③-8 (担当:佐藤)
	第7回	脳血管疾患の薬物治療(1)	血液凝固系を解説後、脳梗塞、脳内出血などの症例を用いて、適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(1)-③-8 (担当:林)
	第8回	脳血管疾患の薬物治療(2)	クモ膜下出血、偏頭痛などの症例を用いて、適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(1)-③-8 (担当:林)
	第9回	頭部外傷、脳腫瘍、てんかんの病態生理と診断	頭部外傷、脳腫瘍、てんかんの症状や概要を示すと共に、診断方法について解説する。	SBO:E2-(1)-③-7 (担当:佐藤)
	第10回	てんかんの薬物治療	症例を用いて、症状や脳波検査よりてんかんを分類し、それに適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(1)-③-7 (担当:林)
	第11回	パーキンソン病、認知症の病態生理と診断	パーキンソン病や、アルツハイマー型・ルビー小体型認知症の病態生理と診断について解説する。	SBO:E2-(1)-③-9,10 (担当:佐藤)
	第12回	パーキンソン病、認知症の薬物治療	パーキンソン病や認知症(アルツハイマー型、ルビー小体型)の症例を用いて、それに適した治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(1)-③-9,10 (担当:林)
	第13回	その他の神経疾患の病態生理、診断、治療	心身症、不安、睡眠障害等の病態生理を示し、診断方法や治療薬について解説する。	SBO:E2-(1)-②-4,11,14 (担当:佐藤)
	第14回	精神疾患の病態生理と診断	精神疾患(気分障害や統合失調症など)の病態生理を示し、診断方法や治療薬について解説する。	SBO:E2-(1)-③-4 (担当:佐藤)
	第15回	精神疾患の薬物治療①	症例を用いて気分障害(躁うつ病)の症状や病態を診断し、症状に合わせた治療薬を選択すると共に、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(2)-③-4,5 (担当:林)
	試験			